

口上

口下

・カラー

・1頁の右の半分

に大々載せて

下さい。

(重要です)

・明く(たい)。

④2558² 9/10
聖本の写本

→左から右の行目に
聖本の写本とある

2,552^P - 2/3



カ
7
ト

板大聖本④2558² 9/10

1309

1409

写真図版 412 広開土王陵碑 (原寸大模型)

④2558² 9/10

『高句麗文化展図録』高句麗文化展実行委員会、86頁参照。昭和60年9月、阪急、

百貨店7階催場にて展示。(※9頁目)「辛卯年」の文字がある。写真図版413大抵大に掲載(7113)

2,552^P-3/3

337^P

大王の世紀197^P 194^P 244^P 大王の世紀200^P 古代朝鮮73^P

開墾中の農民が苔や蔓草におおわれ、いた碑を発見した。(一八一)

翌年、清の懷仁県の役人関月山が、碑文の一部を拓本にとった。

一八八四年(明治十七年) 当時参謀本部員であった酒匂景信によつて持ち帰られた拓本は、参謀本部編纂課で解読され、ついで学界に紹介された。(「日本の歴史」小読売新聞社、一六八頁。「日本史辞典」東京創元社へ母太王碑)。 「古代朝鮮」井上秀雄、日本

放送出版協会、七三頁。「大王の世紀」小学館、一九七頁、二〇〇頁。「朝日新聞」平成六年六月十八日付「広開土王碑の新原石拓本発見。碑文改ざん論争終止符か」等参照。

*

のひ 21543 1744 15 340 839 2958 同文

㊦ 2958' と同文

2,553 P-2/3

やがて位を譲った。
さて、金蛙が鴨緑江の河神の娘柳花をとら
えて問うと、柳花は次のように答えた。
「私は、天帝の子解慕漱と自称する者と交
わりました。ところがその後、彼は帰って来
ません。」
金蛙は、この話を不思議に思っ、柳花を
部屋の中に閉じこめた。
柳花は、日の光にあたりと妊娠して、大き
な卵を生んだ。

金蛙はこれを嫌って、犬や豚に与えたが、
いかにも豚も食べようとせず、道に捨てて
も、牛馬がこれを避けた。
また金蛙は、これを割ろうとしたが殻を破
ることもできず、いかたなく、卵を柳花に返
した。
卵の殻を破って、朱蒙が生まれた。
七歳になった朱蒙は、弓を射るの技が非常
に巧く、百発百中した。
そんな朱蒙を、金蛙の王子たちは憎み、殺

古代朝鮮⁷⁵

2,553^{P-3/3}

三国史記(2)-6^P

淹淲水^{えんこすい}

(蓋斯水ともいいます)

鴨緑江の東北にある

そうと図った。

そこで柳花は、朱蒙に、南^{なん}へ逃^{のが}れるよう

に言った。

追手が迫った。

朱蒙は、川に向って、

「自分^{じぶん}は、天帝の子であり、河神の孫であ

る。追手が迫って、いゝので、なんとかしてほ

しいし、追いつめられ、窮迫して

と言った。

すると、魚や亀が浮きあがって橋を作った

その後、さまざな苦勞を重ねた朱蒙は、

ついに高句麗を建国した

という。陵

■ 広開土王碑は、この朱蒙伝承の主要な部分

を簡略に述べている。『古代朝鮮』井上秀

雄、日本放送出版協会、七三七四頁

『三国史記』(2)金富軾、井上秀雄訳注、平凡

社、三一〇頁(参照)

次頁から

みづから
期3 大カンワ 2167 原本は「史料」による日本の歩み 2181
②550-3/3 同文 ②2814 高句麗文化展 86 聖文 ②554
②2825 ②550-3/3 ②2825 ②2828-2/2

陸文 陸文 陸文 96
古代朝鮮 75

②2510-1/2 に本文と載せた。
②2551

れいぞく
隷属 ②342
新(1) 根の末で4エロクた。
千支08

前頁

第二段

大に業績を賛美した部分であり、大要は次

高句麗の通年(三九五)王(広開土王)は、みずから碑

麗(沃沮地方、現在の北朝鮮東北部)を討伐

した。

麗に隷属し朝貢していたが、倭が辛卯年

(三三一年であらう)に来て海を渡り、百濟

を打ち破って臣民とした。(第四

十一章へ海北の国の項において既述)

百濟王は、多くの貢物を出し、家臣となる

ことを誓った。

王城を攻めた。

高句麗軍は、百濟王の弟などを人質として

凱旋した。

尚、三国史記に三九六年条等に

対応す

古代朝鮮 2546-3/3
2550-3/3

2555-1/3
2551-1/3

百濟本紀 2550-3/3
2550-3/3

古代朝鮮 43の国

記事見当らないようである。

永樂八年戊戌(三九八) 高麗王は 息慎(肅慎) 現

在のウラジオストク近傍(地方)に出兵し、

服属させた。

永樂九年己亥(三九九) 百濟が先年(三九六年)

の誓を破って倭と和通したので、王(高麗王)

王は百濟を討つたため平壤にてむいた。

* 先に述べたとおり、百濟阿莘王の元

年(三九七)五月条に 三国史記

「(百濟)王は倭国と好(国交)を結び、

太子の腆支を人質とした」

とある。(第四十二章)高句麗と百濟との絶

え間のない攻防の項において既述

「ちようどそのとき、新羅からの使者が、

「多くの倭人が新羅に侵入し、王を倭の臣

下としました。どうか、高句麗王の救援をお

願ひ致します」

と申し出た。

そこで大王は、新羅を救助することにした

「後の王」和歌集 150

2878 1/2 版, 2829

永領 小林 1060

永乗 14年 甲辰 (四〇四)

2828 1/2

改行

永乗十年庚子 (四〇〇)

新羅に

四〇〇年 (高句麗は) 五万の大軍を派遣

した。新羅を救援した。新羅王都に至ると、

その中にいはいた倭軍が退却したので、

これを追って任那・加羅に至った。

するとその時、安羅軍などが逆をついて、新羅

の王都を占領した。

四〇四年 倭が (恐らく百済と力を合せて

のこたであらう) 帯方界 (今の黄海地方)

へ侵入してきたので、これを討って大敗させ

た。

永乗十七年丁未 (四〇七)

四〇七年 (高句麗は) 五万の大軍を派遣

し、今の京畿道北部で金と兎一万余領の戦利

品を得るほど大勝した。

四年 庚戌 (四一〇) 高句麗は 東扶余を討って、

これを服属させた、

という。 (古代朝鮮) 井上秀雄、日本放送

出版協会、七五頁参照)

なるほど、広開土王の功績を記録したこの

碑文によつて、

へ広開土王は、百濟軍や倭軍に大きな打撃

前1<は2828頁!

2,555^P-3/3

太
い
ゴ
チ

天
改
行

ニ
と

を
与
え
た
✓

と
い
う
こ
と
が
分
か
る
。

■
と
は
い
え、

「
広
開
土
王
が、
朝
鮮
半
島
全
域
を
服
属
さ
せ
た
」

と
記
さ
し
て
い
る
わ
け
で
は
な
い
。

■
倭
国
は、
こ
の
後
も
長
期
間
に
わ
た
っ
て、
朝
鮮

半
島
南
部
地
域
に
大
き
な
力
を
及
ぼ
し
つ
づ
け
る
の

で
あ
る。
(
記
紀
等
参
照
)

■
第
三
段
(
守
墓
人
烟
戸
に
関
す
る
記
事
)
に
つ
い

て
は
省
略
す
る
。

＊

これまで度々述べてきたように、この物語

では、

へ 広開土王陵碑に刻まれている日 辛卯年

は、三三一年なのだろう。

と 解釈してきた。

しかし現在では通常この辛卯年は三九一年と考

えられており、常識化している観さえある。

「辛卯年が三九一年にあたることは、今日

では通説である」

という。↑↑↑↑↑ (「倭の五王」和歌森太郎

文英堂、一五一頁(他参照))

だが、本当に広開土王陵碑の辛卯年は三九

一年なのだろうか。

上田正昭氏は、概略、次のように述べてい

る。

「広開土王碑文の辛卯年部分についてだけ

でも、いくつかの問題がある。

従来の日本側研究者のよう、辛卯年を三

九一年とし、倭が海を渡って百残(百濟)や

大王の世紀 202~205P
H27(2015)4.9(木)
月刊朝刊 31面とルビ有る

「倭の五王」(寺)
和歌森 151P
通説 391年 2,556P
正確にいた(OK)

⑨ 2539-1/3

「ヒエツカ」② 2555^P-3/3
 ② 2547^P-2/5 3行 OK 上田氏の又中 ~~大い~~ゴ4 2,557^P-1/3
 ② 2547^P-1/5 2行へ 原文 ② 2510^P-1/2

□羅（新羅）を破つて臣民といたというよう
 に簡単にかたづけけるわけにはいかないう
 碑文の□羅をただちに新羅とよみかえ
 うるかどうかも疑問であるし、また三九一
 年に倭が百済を臣民としたことを立証
 する確実な証拠もない。
 日三国史記について、文献批判が必要
 であらう。けれども、三国史記の三九一
 年前後に、倭が百済へ侵入したというよ
 うな状況は物語られておらず、軽視するこ
 とはできない。
 （中略）
 辛卯年を三九一年とし、その前の段にある
 日百残新羅旧是属民由宋朝貢は、
 三九一年以前のありさまとすると、百済が三九
 一年以前に高句麗の属民であつた確証が
 必要になつてくる。
 ところが、日三国史記には、その明証が
 ない。
 むしろ、高句麗の故国原王は百済に攻撃さ

「魏志倭人伝」96頁
確認した
427.(2015)6.17

2,557^P-3/3
2554^P

大王の世紀 204^P ^{少し} ^{太い} ^{ゴチ}
2549^P 1/2

れて戦死し（三七一年）、つぎの小獸林王の
代にも百濟は平壤城に侵入し（三七七）、広
開土王の先王である故国壤王の代にも百濟は
高句麗の都坤城を破った（三九〇）のたつ
た。
碑文において、日六年丙申、日八年戊戌、
日十年庚子、日十四年甲辰、日十七年丁未、
というような年次が、日辛卯年のみについ
ていないのも注目すべき点であろう。
すなわち、日へ広開土王の（永樂五年（三
九五））歳は乙未に在り、日（永樂）六年
丙申（三九六））年王躬水軍を率い、日とのあい
だに、突如として元年号を付していない日辛
卯年に、関する文がはいっているのである。
辛卯年部分について、文全体の構成から
いっても、問題が多い。
という。→日本の歴史②大王の世紀、上
田正昭、小学館、二〇二〇五頁参照）
ともあれ、辛卯年を三九一年と解釈するに
は、あまりにも疑問点が多すぎるようだ。

コクヨ ケー-20 20×20

改行

改行

広開土王碑文の改竄論争について
中国吉林省集安県の「広開土王（好太王）碑」に
は、四世紀から五世紀にかけての倭国や朝鮮半島
の様子が記録されている。
重要史料とされる中国・吉林省集安県の「元
興王（好太王）碑」の碑文解釈の争いが
ありとなる。六つの「原石拓本」が新たに中国
で発見された。と中国社会科学院世界歴史研
究所の徐建新・副研究員がこのほど東京の明
治大学で発表した。
「広開土王碑」の碑文については、日本軍の大
陸侵略に歩調を合わせようとして一部改ざんされたと
いう説がある。しかし今回の発見で改ざん説は
論拠が揺らぎ、日本の学界では論争にほぼ終
止符が打たれたとする見方が強まった。へ以
下、「朝日新聞」平成六年六月十八日付「広
開土王碑の新原石拓本発見、碑文改ざん論争
終止符か（参照）」

1889年 ②558^{P-6/7}
131頁

2.558^{P-3/10}
442

②552^{P-1/3} 1880年(明治13年) 吳
1616~1912 1889年 瑠白か持5冊

拓本には、碑から直接採る原石拓本と、拓
本を採りやすくするために石灰を塗る石灰拓
本がある。
清朝末の一八八〇年(明治十三年)に見
された広開土王碑の場合は、早くから石灰拓
本が数多く採られた。そこで、石灰が碑面に
こびりついて、次第に碑文の解読が困難にな
っていった。
また、広開土王碑が中国と朝鮮民主主義人
民共和国との国境近くにあって、直接研究す
る機会が少なかったため、碑文研究は拓本研
究が主流となった。
そういう状況の中で見い出されたのが、今
日の原石拓本である。
徐氏によると、
「原石拓本は、一九九一年、九三年、北京
大学図書館などで見つかった。
その大半は、一八八九年、中国の拓本職人
だった李雲從が、碑に石灰が塗布される前に
採ったものと考えられ、うち一点の由来書に

2,558^p-3/10

は当時の権威ある収集家、潘祖蔭の名前もある。

保存状態もよく、これまでの拓本で不鮮明

だった十数文字を判読、再確認することか

きた。原石拓本は、天津や上海でも見つか

性が大きい

という。

■武田幸男東大教授は、

「7 広開土王碑の拓本は百点近くある

のほとんどが石灰塗布後の石灰拓本であり、

正しい解釈に必要な原石拓本は六一点しか確認

されていなかった。

新たに六一点の原石拓本が見つか

より、それそれの拓本の文字を十分に比較検

討できるようになった

と、今回の発見を高く評価する。

■また、今回の原石拓本で最も注目されたの

は、碑文をめぐって起きた改ざん論争への影

響である。

魏史観 = 歴史観と同じ

2,558^P - 4/10

魏史観 96^P 原文
② 2510^P - 1/2

四、五世紀の高句麗と、百濟、新羅、倭などの外交関係を記した中に出てくる第一面の碑文は、かぬてより、倭以辛卯年来渡海、倭加辛卯年に海を渡って来た。と解釈されてきた。

●それが正しいとすれば、四世紀、倭はすでに統一国家を形成し、朝鮮半島にまで進出していた。という古代史観を裏付ける重要な根拠となる。

●しかし、この説に対して、李進熙氏（現和光大学教授）は一九七二年、異論を唱えて、碑文改ざん説を強く主張した。

●李氏は、碑文にはもとより来ら日渡ら日海戸などの文字は無く、一八八三年に日本の軍人が碑面に石灰を塗り替えて一部をすり替え、さらにその事実を隠すため、一九〇〇年前後に、参謀本部が碑の全面に石灰を塗りつけて隠す。

他国を
けなす

水谷拓本は剥落多い(次回!)
5時期中の最後

2,558^P-5/10

まち
既知 537^P

した
とし、その背景に、朝鮮半島侵略を目指す
日本軍が、歴史をねじまげようとした意図が
あったと指摘した。
●李説は、既知の拓本の厚真を年代順に並べ
る日編年法をもとにして成り立っている。
●李説によると、碑の表面の傷や穴、字画の
はく落などは年を追って増えていくので、そ
れが多いものほど時代が新しいことになる。
●その分析に基づいて李氏は、拓本を日石灰
塗布後、日石灰の剥落が進行した時期にな
どの五時期に区分し、
「故・水谷悌二郎氏が旧蔵していた日水谷
拓本が、今の碑の状態に最も近く、一番新
しい。おそらく一九三〇年代に採られた」と
結論づけた。
●徐氏は、今回の講演会で発見と改ざん論争
とのかかわりについて、
「私は拓本観察の結果を述べるだけし
て、私を語るに、多くを語らない。」

(二)

1889年 2558² - 3/7 2,558² - 6/10

部^ぶ分^{ぶん}に^につ^ついて^{いて}、
「^こ今^{こん}回^{かい}の^た拓^{たく}本^{ほん}で^も日^に海^{かい}の^な部^ぶ分^{ぶん}は^よ読^よみ
取^とれ^れな^なか^かつ^つた^たか、日^に来^{らい}の^や日^に渡^{わた}の^一部^ぶ分^{ぶん}は
確^{かく}認^{にん}さ^され^れた^た」
と^し、日^に倭^わが^{しん}進^{しん}出^{しゅつ}し^した^たの^とす^る従^{じゅう}来^{らい}解^{かい}釈^{しゃく}に^ち近^{ぢか}
い^い見^み方^{かた}を^し示^しし^した^た。
「^まま^た、今^{こん}回^{かい}の^{げん}原^{げん}石^{せき}拓^{たく}本^{ほん}に^{かん}関^{かん}し^て、徐^{じょ}氏^しは、
「^ひ碑^ひ面^{めん}の^{じょう}状^{じょう}態^{たい}な^どの^{てん}点^{てん}で^も、日^に水^{すい}谷^こ拓^{たく}本^{ほん}の^とよ^く似^にて^いる^る」
と^いい^い、さ^らに、
「^{ろく}六^{ろく}点^{てん}の^{げん}原^{げん}石^{せき}拓^{たく}本^{ほん}を^と採^とつ^た年^{ねん}代^{だい}は、拓^{たく}本^{ほん}職^{しやく}
人^{にん}や^{しゅう}収^{しゅう}集^{じつ}家^かが^あ明^{めい}ら^らか^かな^なこ^こと^とな^など^どか^から、少^{すく}な^なく
と^とも一^{いっ}ハ^ハ九^く年^{ねん}ま^まで^でさ^さか^かの^ぼる^る。そ^それ^れよ^より^り古^こ
い^いと^と思^{おも}わ^われ^れる^るも^もの^もあ^ある^る」
と^と発^{はつ}表^{ひょう}し^した^た。
「^か仮^かに^にそ^その^と通^とり^りだ^だと^とす^すれ^れば、こ^これ^れま^まで^で李^り氏^しが
最^{さい}も^も新^{しん}しい^い」一九^{いち}三^{さん}〇^{じゅう}年^{ねん}代^{だい}と^とし^{して}き^きた^た日^に水^{すい}
谷^こ拓^{たく}本^{ほん}の^{ねん}年^{ねん}代^{だい}が、^{さか}逆^{さか}に^に「^こ古^こく」一^{いっ}ハ^ハ〇^{じゅう}年^{ねん}
代^{だい}ま^まで^でさ^さか^かの^ぼぼ^ぼつ^つて^てし^しま^まう^うこ^こと^とに^にな^なる^る。

(二)

H10, 12, 20

2.558^P-7/10

2558^P-5/10 2558^P-4/1 1900年以前大石氏

この頁の
とすは

●のさとは 水谷拓本の年代に象徴さ
れる李氏の編年が、再検討を迫られ、李氏の
碑文改ざん説は自体の根拠が中々
~~意味~~ 意味を失っている。

●これに対し、李氏は、
「仮に水谷拓本が古い時期のものだと
する。しかし水谷拓本では、これまで私が問
題にしてきた日米日渡日海の文字がど
の水も判読できない。とすれば、だがこれがこれら
の文字をそのように読んだのか。そこには、

何者かの意思が働いている。改ざんの事実が
かえって補強されることになる。L
として、改ざん説を撤回していない。
徐氏による講演会以来、日本の学会に關す
る限り、

「二十年以上続いてきた改ざん論争に、決
着がついたのではないかし
とする見方が多くを占めていゝ、という。

*

Φ2558^P-4/10 16行

2,558^P-8/10

(こ)

5 file 2558^P 見布

88×2.5 = 220
50×2.5 = 125

好太王碑 (ミウタイおうひ) 新たな墨本発見 (あらたなぼくほんはっけん)

好太王碑 (ミウタイおうひ) (広開土王碑) (こうかいとうおうひ) の新たな墨本が、

中国で発見された。

鑑定した中国の研究者は、
「現存するもの
で最古」と判断。旧陸軍が中国から持ち出し

こゝまで最古とされてきた墨本 (酒白本) と
書体や文面がほぼ一致する (と) などから、
改

ざん説は否定された」と結論付けている (字)

真図版 413 参照

中国社会科学学院の徐建新教授が、
中国の
学術誌「中国史研究」に論文を発表した。

・同教授によると、新発見の墨本は北京の
イ
ク
シ
ヨ
ン
に
二
〇
〇
四
年
出
品
さ
れ
、
鑑
定
を
依

頼された。

酒白本と新発見の墨本は、文字がよく似て

おり、
来渡海破し、
大きな違いは無い。

一方、新発見本には、
入手経緯などを記し

た四人の跋文 (書き付け) があり、
徐教

*頁の上半分に大きく掲載下さい。

2,558^P-9/10



左が中国で発見された墨本、右が酒匂本—徐建新教授の論文「高句麗好太王碑早期墨本的新発見」から

132G 146G 写真図版 413 新たに発見された『好太王碑』墨本

『朝日新聞』平成17年(2005)6月30日、〈好太王碑、新たな墨本発見。中国の研究者、旧日本軍の改ざん説否定〉参照

令和2(2020)2.19(水)~2.21(金)

~~1882~~ = 1882 = 1882

⑤ 2558¹ 4/10 12行上有了